

『ホウレンソウのべと病対策』

管内でホウレンソウのべと病の発生が増えてます。べと病はホウレンソウの主要な病気で、葉にカビが生えて大きく減収するため、防除を行ってください。

被害の特徴

低温で曇雨天が続くときに発生が多く、10～12月、3～5月に発生します。発生初期は、葉の表面に輪郭の不明瞭な黄白色の小斑点ができ、しだいに拡大し、不定形の黄色い病斑になります(写真1)。葉裏には灰色のビロード状のカビが密生します(写真2)。下葉から発生することが多く、しだいに上葉まで進展し、激しくなると株全体が黄白色になって枯れ上がります。



対策

- ・ 極端な密植を避け、日当たりと風通しをよくする。(最終株間は5～7cm)
- ・ 高畝栽培、明渠(排水溝)の設置をするなどして排水をよくする。
- ・ 連作を避け、1年以上輪作する。
- ・ 発病株は早めに除去し、収穫後は残渣を圃場外に持ち出し処分する。
- ・ 窒素過多は葉が軟弱になり発生を助長するので、適量施肥に努める。

・ 抵抗性品種を利用する。特に発生しやすい環境では多くのレースに抵抗性を有している品種を選定する。
ホウレンソウのべと病は現在国内でレース1～17まで確認されている。レースとはべと病菌の種類で、ホウレンソウの品種はべと病抵抗性の有無をレースごとに表記している(図1)。

例：図1の品種はレース1～11、13、15に抵抗性がある。



図1 レース表示の例(カネコ種苗)

薬剤防除

- ・ 発病後の防除は困難なので、発病前から発病初期の防除を徹底する。
- ・ 耐性菌の出現を避けるため連用を避け、FRACの異なる薬剤をローテーション散布する。

表1 ホウレンソウべと病登録農薬の例

令和3年11月現在

農薬名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法	有効成分	FRAC
ランマンフロアブル	2000倍	100～ 300L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	シアゾファミド	21
レーバスフロアブル	2000倍		収穫3日前まで	2回以内		マンジプロバミド	40
ピシロックフロアブル	1000倍		収穫前日まで	2回以内		ピカルブトラゾクス	U17
ユニフォーム粒剤※		9kg/10a	は種前	1回以内	全面土壌混和	アゾキシストロピン	11
						メタラキシルM	4

※間引き菜を収穫する場合は使用できません。